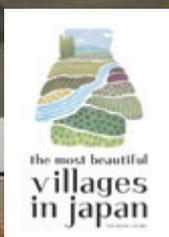


広報④  
No.726  
令和6年

# いいたて 8

[www.vill.iitate.fukushima.jp](http://www.vill.iitate.fukushima.jp)

いいたてホー





一段と見事に咲きました。阿部勝男さん(佐須)のヒマワリ畑。

# はやま湖まつり2024

7月27日、大倉地区のはやま湖畔で、『はやま湖まつり』が開催されました。大倉行政区・上栢窪行政区(南相馬市)・もりの駅まごころ運営協議会が実行委員会を組織して主催。また、村と県が後援、福島県治水協会の協賛もあり、多くの観客を迎え、賑やかに開催されました。

当日は、地元をはじめ実行委員会の皆さんが屋台を出し、浴衣姿の子ども達や家族連れが多数訪れて、祭りの雰囲気を楽しんでいました。一時土砂降りの雨が降りましたが、開会の頃にはすっかり上がって、「大倉の神楽」の披露、湖面に映る大輪の花火も、多くの方の心に残ったことでしょう。たくさんのご来場、本当にありがとうございました。

## 目次 CONTENTS

- 02 話題「はやま湖まつり」
- 04 特集「ふるさとで働こう」
- 12 農業委員会「新委員を紹介します」
- 13 お知らせ「教育委員の任命」ほか
- 14 空から百景「梅雨の頃」
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 20 村からお知らせ
- 23 いいたてなりわいREPORT
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 村民広報委員コラム ほか
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／いいたて夏まつり

## 📷 今月の表紙

介護士としていいたてホームで働く菅野大喜さん。「いいたてホームは、家にいるような雰囲気があり温かい。利用者さんと過ごしていると、自分も笑っていられます」と仕事の魅力を語っていました。菅野さんには特集の座談会(P8)にもご協力をいただきました。ぜひご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定任係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。



大倉の神楽

オープニングセレモニーの初めに大倉民俗芸能保存会が「大倉の神楽」を熱演。喝采を浴びました。



真野ダム見学会

普段は見られないダム内部を見学。給水車の展示などもあり、参加者がダムについて学んでいました。



行政区や事業者が屋台を出店し、来場者をおもてなし。祭りの雰囲気を盛り上げました。



山々にぐるっと囲まれたはやま湖に、花火の音がドンと響いてこたえます。湖に打ち込まれ、水面に広がる水中花火にも大きな歓声がわきました。ここでしかできない、特別な花火大会です。



相双建設事務所のパネル展示や事業者などのワークショップが子ども達を歓迎。写真は木工教室。



ステージイベント

緑の木立をバックにした特設ステージで「尺とらズ」(上写真)と「Sストリオ」が軽快なナンバーを演奏。

# ふるさとで働こう 避難で離れたふるさとで働く若い担い手達の物語

平成23年3月に発災した東日本大震災から13年が経過しました。飯館村は震災の翌月に計画的避難区域に指定され、子ども達が通う学校も、再開と同時に村外に避難しました。

その激動の時期を当事者として経験した子ども達が、今、働く世代に成長しています。避難で離れたふるさとで仕事に就く人も、次第に増えてきています。震災当時の小学生・中学生で、現在村内で働いている皆さんに、当時のことを振り返りながら、ふるさとで働くそれぞれの想いを聞かせていただきました。



佐藤 匠さん(蔵平)

震災の日は小学5年生

佐藤さん

## 菊池製作所 飯館工場

大内美咲さん(佐須)

震災の日は小学1年生

大内さん

小学校の仮設校舎には、5年間通いました。3校合同で友達が増え、それぞれの学校のいい所を調べて発表したこともありました。仮設だったからこそ知ることができたこと、経験できたことが多かったように思います。中学校は渡利中学校に転校。高校卒業後は、進学よりも働きたいと考えて、こちらに入社しました。私も母が菊池製作所に勤めていて小さい時から仕事の話聞いていました。他の工場でも役に立てる機会があるなど、いろいろな仕事を経験できて、想像以上に自分に合っていて、楽しいです。

小学6年生の時は、川俣中学校に間借りした校舎に通って、そのまま川俣中学校に進学しました。村の学校が好きでしたが、同じように川俣中学校に通う友達がいて不安はありませんでした。家は震災前は酪農をしていて、母が菊池製作所に勤めていました。そのおかげで酪農と菊池製作所が、小さい時から仕事の選択肢の一つにありました。菊池製作所には昨年4月に入社しました。忙しい時もありますが、周りの人に恵まれ、「分からない時はいつでも聞いて」と言われていて、仕事をしやすい環境です。

震災前の飯館村には、草野小学校、飯樋小学校、白石小学校の3つの小学校と、飯館中学校がありました。震災のひと月後、4月11日に計画的避難区域となり、3小学校と中学校は、4月20日に飯館中学校体育館で合同の入学式を行い、川俣町の学校施設へ移って学校活動を再開しました。3つの小学校は川俣中学校を間借りし、翌24年度から、川俣町内に整備した仮設校舎に移りました。3校合同の行事の名称は「いたてっ子運動会」「いたてっ

子発表会」となり、式では3校の校歌を皆で歌っていました。飯館中学校は、川俣高校の施設の一部を間借りして、学校活動を再開しました。中学校の仮設校舎は福島市飯野町の空き工場を改修して整備され、平成24年の2学期から移転しました。学校の避難は7年間に及びました。子ども達は、困難な時期も、その時その時を精一杯に過ごしていました。避難を経験しているからこそその学びや交流にも取り組みました。

飯館中学校仮設校舎



- 平成23年3月 東日本大震災
- 平成23年4月 川俣町内の学校施設を間借りし避難
- 平成24年4月 草野・飯樋・白石小学校仮設校舎開校
- 平成24年9月 飯館中学校仮設校舎開校
- 平成29年3月 一部を除く村内の避難指示解除
- 平成30年3月 小学校・中学校の仮設校舎閉校
- 平成30年4月 草野・飯樋・白石小学校、飯館中学校帰村
- 令和2年4月 義務教育学校いたて希望の里学園開校



草野・飯樋・白石小学校仮設校舎

## 全村避難に伴い学校も避難しました

平成23年度は、川俣町内の学校の校舎を間借り。子ども達は避難先からスクールバスで登校しました。写真は川俣中学校の校舎で学んだ3小学校の1学期終業式。



震災により中止された3小学校の平成22年度卒業式を、同じく卒園式が中止された2幼稚園と合同で挙行。平成23年12月に川俣中央公民館で行いました。



飯館中学校の生徒が福祉体験の一環で仮設住宅で清掃や炊き出しを行うようになりました。田植え踊りの練習と披露も始まり、避難する村民を勇気づけました。



田植え踊りの活動は、避難で離れたふるさとを学ぶ「ふるさと学習」の中で継続され、それらを基礎に村独自の教科「いたて学」が誕生しました。

飯館村社会福祉協議会



石黒優美佳さん(八木沢・芦原)

震災の日は中学2年生

今年の4月から社会福祉協議会で放射線相談員の仕事をしている石黒さん。「までの里のこども園」に通う2歳の長男・橙和くんのこども園選びが、村で働く動機になりました。「目が行き届く人数でみていただけるし、のびのび育つ環境もあって」。また、村内で暮らす親戚も子育てに協力してくれるそうです。職場では日々、班長と共に村民の自宅を訪問したり、地域サロンをサポートしたりしています。「村民の方々の所を回っていて、サポートができる存在に、村外で暮らす方々には寄り添えるような存在になりたいです」。

ふるさとの新たな担い手に

が村内で働いていると思われれます。今回お仕事の都合などで取材が叶わなかった皆さんも、ご対応をありがとうございます。お会いできた方には、今、村で働き感じていることを教えていただきました。

あの日の子ども達が

小学生・中学生の時代に震災を経験した子ども達が、あの日、避難で離れた村で、仕事をしています。お話を聞かせていただきたいと情報を収集したところ、すぐに20人程の情報が集まりました。実際にはもっと多くの方

高橋石材工業



高橋 敏さん(上飯樋)

震災の日は中学3年生

実家が営む会社に勤務し、村内外で石材を使用する建設工事に携わっている高橋さん。ものづくりが好きで、中学生の頃から、建設関係の仕事に就くことを考えていたそう。「村は静かで落ち着くし、何か村でやりたいという気持ちもありました。人が少ないからこそ地域密着で、周りの人に寄り添えるような仕事できれば」。会社は避難先の福島市と村内工場の2拠点を活用して、現場の行き来も忙しい毎日ですが、商工会青年部や村のソフトボールチームにも参加し、先輩や同世代とのつながりも大切にしています。



庄司優美さん(草野)

震災の日は小学1年生

までの里のこども園

令和4年度から、給食調理員として、こども園で勤務しています。調理師の資格は高校時代に取得しました。震災時は小学1年生。姉と双子の弟がいて、震災直後の期間は車中泊も経験。小中学生時代のほとんどを仮設校舎で過ごしました。避難中に学んだ『ふるさと学習』は、「さまざまな形で飯館を知ることができて面白かった」と印象に残っています。また、父も村内企業に勤務していて、「飯館で仕事してみたい」と思っていました。「調理した給食を、子ども達がおいしそうに食べるのを見るとやりがいを感じますし、楽しいです」。

飯館村森林組合



高橋尚樹さん(草野)

震災の日は小学6年生

草野小学校の卒業式を前に震災が起き、中学生時代は、川俣高校の間借り校舎で1年半、仮設校舎で1年半を過ごしました。森林組合との出会いは偶発的で、職員募集のチラシがきっかけ。3年目の現在は、「ふくしま森林再生事業」について地権者に説明し同意を得る業務を担っています。森林再生の最前線で「的確な説明ができて同意を得られた時にはやりがいを感じます」と高橋さん。「自分の家も山を持っていますが、まだ手付かずの状態。自分がある間にその山も再生し、元のきれいな山に戻せたら」と願っています。



### みんなの気持ちをもっと知りたくて

## 座談会を開きました

飯舘中学校の仮設校舎で同じ時期に在籍していた4人の方に出席をいただき座談会を開きました。写真の左奥から左回りに、新開茜衣梨さん(草野)、渡邊 菜さん(関沢)、菅野大喜さん(草野)※出身は比曽、巻野 凌さん(飯樋町)※広報担当。



座談会は、7月17日、いいたての暮らしをつなぐステーション【3ど°】(いいたて移住サポートセンター)で開きました。夕刻、仕事を終えた皆さんにお集まりいただき、和やかにお話していただきました。

巻野：村の施策にも「ふるさとの担い手」というキーワードがありますが、避難を経験した子ども達が今こうして村で働いていることを、広報を通して村民の皆さんにお伝えしたいと思っています。本日はふるさと飯舘村と向き合いながら、それぞれの状況などをお話できればと思っています。

まず自己紹介から。今年26歳になります。役場で広報を担当しています。母と祖父と飯樋町の実家に住んでいます。

菅野：26歳になりました。いい家でホームで介護士をやっています。草野小学校の近くで一人暮らしです。

渡邊：昨日ちょうど26歳になりました。

新開：菅野・巻野：おめでとう！

渡邊：今は村の商工観光係で仕事をしています。その前の半年間は税務係で働いていました。

冬になって雪が大変な時には関沢の実家に泊まるうかと。福島市で両親、兄、祖母と暮らしています。

新開：すぐその建設会社、東栄で働いています。3人の子どもの子育て中で福島市から通っています。

質問① どうして今の仕事に就こうと思いましたが。

巻野：元々仙台市で福祉系の大学に通っていて、放課後等デイサービス(障害を持つ子ども達の通所施設)で働き、その後、村に戻って来ました。役場で働く幼馴染みが、会計年度任用職員の募集を教えてください。応募し、農政第一係、商工観光係で働き、現在は正職員となり、広報を担当しています。

菅野：巻野君の目指すところは。

巻野：役場でもいつか福祉の分野で働いてみたいと思っています。元々最終的には村で働こうと思っていたので、それが早まった感じですね。

新開：私は家業なので、いずれここで働くことを考えていました。私自身には特にやりたいことはなく、卒業して、出産して、県庁の避難者支援の部署でも働きました。実家の会社には、事務で入りましたが、向いていなくて、今はダンプに乗っています。

渡邊：私は2年程ドラッグストアで働いていて、去年の6月に辞めて村に戻って来ました。短い期間で転職が続いたことが理由です。父が役場に来た時に職員の方に声をかけてもらい、昨年度の半年間は税務係で、今年度は商工観光係で働いています。

菅野：高校を卒業し福島市の工場に4年ほど勤めましたが、おばあさんの介護が必要になり退職しました。他の家族はそれぞれ事情があり、自分がやるしかないと考えたからです。このことがきっかけで、介護を仕事にしようと考えました。

いいたてホームに入ってみたら、遠い親戚とか家族の同級生

や知り合いとかが多くて(笑)。地元だなという感じですね。

介護の仕事のやりがいは、ずっと笑っていられること。おじいさん、おばあさんと接して、方言で話して、話し方や考え方のギャップを楽しんでいます。

渡邊：商工観光係の仕事で、4月下旬、「春日部藤まつり」で物販を行いました。「昨年買っておいしかったからまた買って行くね」と立ち寄ってくれる人がいました。村を知っている人も多く、声をかけてくれたり最近のことを聞かれたり、続けることの意味を感じました。今は仕事に慣れることで精一杯ですが、年度が終わる頃には楽しかったと言えるようになりました。

新開：やりがいは、会社が村の仕事を受注して、基盤整備や復興事業を担っていること。農業をこれからやる人、すでにやっている人、どちらにとっても環境の整備は大事。その仕事に関われること自体がやりがいです。



渡邊：今は役場で働いていますが、何か村のためにできること

菅野：遠い将来、自分が年寄りになった時には、ポツンと一軒家みたいな所で暮らしてみたい。定年を過ぎてからとか。静かな村の方が好きだから。

それと、実は職場に憧れている人がいて。職員としてというより、その人の性格に憧れていて、自分もそんな風になれたらいいなと思っています。

菅野：正直今のことでいっぱいだけれど、将来も、村に住んでいるのだろうと思う。例えば一旦離れる時期があったとしても、最終的にはここにいたいと思う。そんな気がする。今はとにかく目の前のことを精一杯、地元を目を向けながら頑張りたい。

菅野：村の皆さんに関わりながら、直接村政にも関わられる部署にいて、最前線ですることによりがいを感ずります。広報は、どれだけ早く村の皆さんに届けられるかを考えながら、飯館村はこんなにもいい村だよと知ってもらえるようにつくっていききたい。

質問② 皆さんにとつてふるさととはどんな所ですか。

菅野：当たり前にあるのがふるさとで、以前はたまに行く福島市や南相馬市がすごく楽しかった。ふるさとを離れて仙台市に出てみて、都会は都会で便利なのだけれど、それでもこちらに戻って来なくなる。何も考えず

現場で資材を置く場所を貸してもらえたり、村の人の力も借りながら仕事をしているの、一つ終わることに達成感を感じます。父も飯館で生まれ飯館で育った人。信頼関係を築いて、外部の会社ではできないことができていっていると思います。

菅野：村の皆さんに関わりながら、直接村政にも関わられる部署にいて、最前線ですることによりがいを感ずります。広報は、どれだけ早く村の皆さんに届けられるかを考えながら、飯館村はこんなにもいい村だよと知ってもらえるようにつくっていききたい。

質問③ 村の将来を思い描いてみてください。

菅野：自然のままでもいいんじゃないかな。都会にならなくても。自然な感じがいいと思う。でも駄菓子屋みたいな店はあるといいかな。

菅野：変に便利になり過ぎないでほしいな。昔の人がやってきた、今では想像できないような農業の苦労、そういうことも大事にしないと勿体無い。

渡邊：私はもう少し、移住者に増えてほしい。村のやって来たことやお祭りなんかを引き継ぎながら、新しい飯館をつくっていったらいいと思います。

質問④ これからの自分。どんな風になつていきたいですか。

菅野：こういうセミの鳴き声や、田んぼのカエルの鳴き声が心地よく聞こえるのがいいと思う。

菅野：ヒグラシがいいよね。

新開：飯館村は、子育ての環境としてはベストじゃないかと思う。今は福島市で子育てをしていて、自分が育ったところは贅沢だった、恵まれていたと感じるようになりました。小学校や中学校で村を学ぶ授業とか、一人ひとりのことを考えてもらっていたと感じています。海外の研修に行けたり、海洋アドベンチャーに行けたり、すごい経験です。都会で子育てしていて、ここまでの自然に囲まれることはないし、自分で手をあげないと事業にも参加できない訳だし、自分のふるさとってすごい所だなんて思うし、子ども達にもそういうことを経験させてあげたい。すごくいい所なんだって。だから私も

菅野：子ども達の目標にはなれなくても、私の姿を見て子ども達が「何でもやってみよう」と思ってくれるように、私も昔と変わらず挑戦を続けたい。

この村に住んでいなくても、私の友達は、結構飲み会とかで、村で農業やりたいとか、こういう会社をつくりたいとか、構想を話しています。うちの同級生は飯館に対する思いのある人がすごく多い。

私も、大変な時を共に乗り越えてきた友達と何かやりたいなっていうのも思っていて、会うたびに語り合っただけで、まだ実現できていなくて。将来は必ず村の何かの役に立てるようにになりたいなと思っています。

菅野：村の同級生と飲み会を？

菅野：でも、それって本当はプラスだよ、恵まれてる。そして何くそと言う気持ちもあつたよね、別に自分はそういう村が好きだしってね。信号機が少ないことも確かにいいこと。

菅野：村の将来を思い描いてみてください。

菅野：自然のままでもいいんじゃないかな。都会にならなくても。自然な感じがいいと思う。でも駄菓子屋みたいな店はあるといいかな。



アフタートークでは、震災の時のこと、避難していた学校の思い出などが語られました。「あの地震の時、飯櫃の友達と電話をしていて、向こうの家が先に揺れ始めたんだよ」「停電しても薪のお風呂！やっぱり飯館は強いよね」などなど。今だから話せるたくさんのこと。また、聞かせてください。



菅野：盆踊りも昔の規模でできたら。伝統芸能とか、地区の人がわちゃわちゃしているみたい。

菅野：村だけ、森だけ、騒いでみたい感覚、賑やかに。

菅野：変に便利になり過ぎないでほしいな。昔の人がやってきた、今では想像できないような農業の苦労、そういうことも大事にしないと勿体無い。

渡邊：私はもう少し、移住者に増えてほしい。村のやって来たことやお祭りなんかを引き継ぎながら、新しい飯館をつくっていったらいいと思います。

質問④ これからの自分。どんな風になつていきたいですか。

### 教育委員に佐藤修治さん

飯館村教育委員に、佐藤修治さん(前田)が任命されました。6月末に星弘幸さん(上飯樋)が退任されたことに伴う新委員の任命で、佐藤さんには、令和10年6月30日までの任期中、教育行政にお力添えをいただきます。7月1日に、村長室にて任命式が行われ、杉岡村長が佐藤さんに任命書を手渡しました。



### 人権擁護委員委嘱状伝達式

7月11日、「退任感謝状及び新任人権擁護委員委嘱状伝達式」が執り行われました。式では初めに、令和3年から人権擁護委員を務めた和田憲昌さん(白石)に感謝状が伝達され、続いて小林洋子さん(小宮)に、法務大臣からの委嘱状が伝達されました。人権擁護委員は、地域の方々からの人権相談を受け、問題解決のお手伝いをする他、人権擁護に係る啓蒙活動を行っています。

### 人権擁護委員の功績に感謝状

5月30日に行われた福島県人権擁護委員連合会総会において、仙台法務局長感謝状を受けた高木久子さん(大倉)が、7月17日来庁し、杉岡村長への報告を行いました。高木さんは、平成29年から現在まで人権擁護委員として活動を続けています。高木さんの長年にわたる人権活動に対し、「人権の擁護と人権思想の普及高揚に貢献した」とその功績を称えて感謝状が贈られました。



### 交通教育専門員永年勤続表彰

山岸安博さん(白石)が、福島県交通教育専門員連絡協議会から永年勤続表彰を受け、7月8日、杉岡村長に報告を行いました。山岸さんは、福島県交通教育専門員を14年にわたり務めていて、懇談では、震災前に白石小学校で行った交通安全教室や通学路での交通指導などを振り返っていました。また、交通指導員を15年務めて退任した林さい子さん(白石)には、同協議会から感謝状が贈られました。

## 新しい農業委員と農地利用最適化推進委員を紹介します

7月8日、農業委員辞令交付式及び農地利用最適化推進委員委嘱状交付式が行われました。任期満了に伴い改選された7人の農業委員と、13人の農地利用最適化推進委員を紹介します。

### 農業委員

<p>■ 会 長 職 務 代 理 者</p> <p>■ 農 業 委 員 会 長</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>
<p>西尾ツネさん (二枚橋・須萱)</p>	<p>原田直志さん (深谷)</p>	<p>山田 豊さん (関根・松塚)</p>	<p>赤石澤忠則さん (上飯樋)</p>
<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>
<p>菅野啓一さん (比曾)</p>	<p>開沼 剛さん (前田)</p>	<p>鳴原清三さん (長泥)</p>	<p>比曾 比曾さん (比曾)</p>

### 農地利用最適化推進委員

<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>			
<p>庄司武実さん (小宮)</p>	<p>紺野政勝さん (関沢)</p>	<p>木幡良勝さん (伊丹沢)</p>	<p>松下義喜さん (草野)</p>
<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>			
<p>西川 徳さん (宮内)</p>	<p>菅野和彦さん (佐須)</p>	<p>郡 之雄さん (大倉)</p>	<p>濱名時夫さん (八木沢・芦原)</p>
<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>			
<p>林 吉安さん (白石)</p>	<p>新妻幹男さん (蕨平)</p>	<p>三瓶政美さん (大久保・外内)</p>	<p>渡邊文夫さん (前田・八和木)</p>
<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>			
<p>前田 八和木</p>	<p>佐藤隆男さん (飯樋町)</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>	<p>■ 担 当 地 区</p> <p>■ 担 当 地 区</p>

村内には大きさも形もさまざまなため池が数多く点在しています。ここ上飯樋地区のため池は、貴重な水生植物が自生し、水鳥の憩いの場にもなっています。7月の梅雨空の朝、多種類の水草が、水面に模様を描きながらさざなみに揺れていました。真白で小さな睡蓮の花は、のどかなウシガエルの声に耳を傾けていました。

## グラウンド・ゴルフ スポーツ交流会 元気な笑顔が集まりました



大会は68人の参加により賑わいました。村民の皆さんに混じって、杉岡村長もプレーを楽しみました。

7月15日、いいたてスポーツ公園の屋内運動場で、『第13回村民グラウンド・ゴルフスポーツ交流会兼第21回飯館村老人クラブ連合会グラウンド・ゴルフ大会』が開催されました。結果は以下の通りです。

【男子の部】優勝・高橋則雄さん(二枚橋・須萱)、準優勝・菅野益夫さん(関根・松塚)、第3位・高野孝一さん(前田・八和木)

【女子の部】優勝・高木ミヨ子さん(大倉)、準優勝・佐藤キミヨさん(前田)、第3位・高橋ヤス子さん(二枚橋・須萱)

【ホールインワン賞】41人

## 福島県立医科大学 いちばん館でレクリエーション実習

6月28日と7月5日に、いちばん館にて、福島県立医科大学保健科学部作業療法学科のレクリエーション実習が行われました。同大学が村内で実施している実習の一環で、1年生の「基礎作業学実習I」の授業として実施されました。学生の皆さんが企画した今回のレクリエーションは、「ボウリングゲーム」と「狙って飛ばせ風船ゲーム」。両日、学生約20人と村民約20人が参加し、飯館村社会福祉協議会も協力しました。参加した皆さんは、レクリエーションはもとより、学生との交流を心から楽しんでいる様子でした。



写真は7月5日の「狙って飛ばせ風船ゲーム」。無理のない範囲で全身を使ってゲームを楽しみます。

## 楽しみながら科学を学ぶ はるお姉さんのサイエンスショー



大きな装置の実験にドキドキしたり、参加型の実験に挑戦したり。子ども達の目がキラキラと輝きました。

全国で活躍するサイエンス・エンターテイナー、京乃はるさんによるサイエンスショーが、7月20日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。

夏休み初日とあって、会場には村内の家族連れなど40人余りが集まり、一瞬で水の色が変わる実験に驚いたり、空気砲の輪を追いかけたりして、楽しみながら科学の知識を学んでいました。

ショーの最後には、京乃さんへの質問コーナーもあり、「身近な材料でも色を変える実験はできますか」など、たくさんの質問が出ていました。

## 飯館みらい発電所 蕨平地区の現地で竣工式

6月30日、蕨平地区に整備された『飯館みらい発電所』の竣工式が現地で執り行われました。

この発電所は、森林の再生と未来志向型農業体系の構築等を目的とした木質バイオマス発電施設です。式では、同発電所の田中丈夫所長が、発電の仕組みや施設の概要を説明しました。

また、杉岡村長が祝辞を述べ、「本事業の伸展によって、本村のみならず浜通り被災地域の森林整備の促進や雇用創出など、福島全体の復興に寄与してほしい」と期待を語りました。



関係者によるテープカット。同発電所は、発電事業を通して、里山の再生、林業の振興に貢献していきます。

## 伊藤信太郎環境大臣 長泥地区を視察



花卉のハウスで住民の皆さんと懇談し、贈られた花束を手に笑顔を見せる伊藤大臣(後列左から3人目)。

7月25日、伊藤信太郎環境大臣が長泥地区を訪れ、長泥コミュニティーセンターや地域の花卉を育てるビニールハウスの視察をしました。

花卉のビニールハウスでは、長泥行政区長の高橋正弘さんを始め、地域の方々が花卉栽培や農業の現状を説明しました。

また、国が進める環境再生事業への理解醸成や、脱炭素の村づくりに向けた支援、帰還困難区域の再生・発展のための支援などについて、杉岡村長が要望を行いました。

## 文化財保護審議会 先進地の視察研修を実施

7月4日、村文化財保護審議会(多田仁彦委員長/宮内)が、宮城県石巻市で『民具調査・活用先進地視察研修』を実施しました。文化財の管理や収蔵方法などの具体例を学び、村として今後の保存活用に活かすため企画されたものです。東日本大震災で津波被害を受け、現在は校舎全体を被災資料等収蔵施設として利活用している旧石巻市立湊第二小学校や、石巻市博物館の収蔵庫などを見学しました。研修には民具アドバイザーや社会教育委員らも参加し、「素晴らしい。見に来られてよかった」と話していました。



専門的な知識で分かりやすい説明をしてくださった石巻市博物館の学芸員の方々(右)。

## フジテレビ冒険王にナツハゼ参上!

フジテレビ(東京都港区)が開催している『お台場冒険王』の催しの一つ、『FNSふるさとかき氷28』。系列放送局から届いたおいしいシロップで、かき氷が味わえるという企画です。その中で、福島テレビ発のシロップは、なんと「ナツハゼ」。菅野クニさん(宮内)のニコニコ菅野農園が原材料を提供しています。『お台場冒険王』は8月25日まで。現地を訪れる人は、ぜひナツハゼシロップのかき氷を味わってみてくださいね。



## 上飯樋音楽フェス

7月21日、上飯樋行政区「13区を考える会」が主催するイベント「上飯樋音楽フェスと区民の集い」が同行政区の岩部地区で開催されました。

イベントでは、アマチュアバンドや区民による音楽演奏を始め、上飯樋行政区の歴史や地理の〇×クイズ、大型トラクターの試乗など、多種多様な催しが行われ、多くの参加者でにぎわっていました。夏の日差しと共に、区民の皆さんの笑顔が輝いていました。



## 社会を明るくする運動+あいさつ運動

7月1日、飯館村保護司会から4人の保護司が来庁し、『第74回「社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式』が行われました。この運動は、犯罪や非行の防止、更生について理解を深め、安全安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。式では飯館村保護司の多田仁彦さん(宮内)がメッセージを読み上げ、伝達を行いました。

また、7月9日には、いいたて希望の里学園で、飯館村更生保護女性会と飯館村保護司会の皆さんが、あいさつ運動を行いました。この日は両会から14人の方が参加し、登校してくる子ども達に笑顔で「おはようございます」「いってらっしゃい」と声をかけ、あいさつの大切さを伝えました。



伝達式の様子



あいさつ運動



## 楽しいこと持ち寄って「わくわく交流イベント」

7月13日、白石地区の細川牧場を会場に、ゲストハウスCOCODA(ココダ)主催の「わくわく交流イベント」が開催されました。株式会社サクラ・シスターズ、つどい茶屋JAZZ喫茶くま、細川牧場、コンフルエンシア・ジュニア(川俣町)が協力団体としてバックアップ。バンド演奏、トークショー、コスキンダンスなどのステージショーが行われた他、乗馬体験も人気を集めました。青空にも恵まれ、多くの方が足を運んで、わくわくの体験を楽しんでいました。

台湾からインフルエンサーを招いて、当日の様子を発信しました。左端はゲストハウスCOCODAオーナーの大澤和己さん。

総合司会は、株式会社サクラ・シスターズ代表の峯岸ちひろさん。



## 飯館村森林組合の伐採式

7月22日、佐須地区にて、飯館村森林組合が『令和6年度伐採式及び安全祈願祭』を執り行いました。同組合は村の「ふくしま森林再生事業」を本年度も受託し、村内の森林整備を進めていきます。式では、佐藤長平組合長(宮内)が「持続可能な社会の実現に向けて、山の神に感謝しながら事業を進めたい」とあいさつ。杉岡村長は「未来につながる森林の再生を進めてほしい」と、期待と展望を述べました。



## ライオンズクラブがホームの草刈り

飯館ライオンズクラブ(佐藤真弘会長／二枚橋・須萱)の皆さんが、いいたてホームで草刈りの奉仕活動を行いました。

6月9日の早朝、約10人のメンバーが集まり、施設周辺の草をきれいに刈ってくださったそうです。折に触れ、いいたてホーム、そして入居者の皆さんに支援の手を差し伸べてくださる飯館ライオンズクラブへの感謝を込めて、ホームから村広報へ、写真と情報が届きました。ありがとうございました。



## いいたてつなぐ写真館

次回は8月25日!



申込フォーム

いいたての暮らしをつなぐステーション3ど°(いいたて移住サポートセンター)の企画「いいたてつなぐ写真館」。シロヤマ写真館(須賀川市)のカメラマンが3ど°に出張。撮影した写真はデータとプリントでお渡しする他、3ど°のSNS発信などにも活用させていただきます。

第1回は「いいたて村で働く」をテーマに7月21日に開催しました。右の写真、いかがでしょうか。見る人も思わず笑顔になる素敵なショットですね。次回8月25日のテーマは「いいたて村を想う」です。どなたでも無料で参加できますが、定員があり予約制となっています。ぜひお早めにお申し込みください。

お問い合わせもお気軽に!



3ど°(いいたて移住サポートセンター)  
飯館村役場西側(までいな家)  
☎0244-68-2850  
平日午前9時~午後5時30分  
✉ iju@iitatelife.jp



## 農業研修館きらりオープン!

新規就農者技術習得管理施設「農業研修館きらり」の竣工式が、7月1日、現地で執り行われました。式では関係者を前に杉岡村長があいさつし、「農業の担い手から担い手へ、意欲と技術を継承したい。村の農業の魅力を発信すると共に、交流人口の拡大にもつなげたい」と期待を述べました。

式の後は内覧会が行われ、「農業研修館きらり」は同日から運用を開始しました。



多くの関係者が出席した竣工式。代表者がテープカットを行い新施設の門出を祝いました。

## 風の子広場で謎解き探検

7月7日、ふかや風の子広場にて、1日限定のイベント『謎解き探検』が開催され、広場がたくさん家族連れでにぎわいました。

この『謎解き探検』は、参加者が、風の子広場のエリア内に隠された「なぞなぞ」を見つけ、その「なぞなぞ」に答えながらゴールを目指すもの。探検を続けて、最後の謎が解けた皆さんには、広場スタッフからの素敵なプレゼントも待っていましたよ。



広場の大型遊具の中にも「なぞなぞ」を発見!ドキドキハラハラの謎解きに、気分は名探偵です。

## J A 肉用牛共進会に出場

7月12日、本宮市の福島県家畜市場で、令和6年度JAグループ福島肉用牛共進会が開かれました。

共進会は、管内生産者の技術研鑽や飼養管理技術の向上などを目的に実施されています。村からは地区の推薦を受けた佐藤一郎さん(大倉)、松林正治さん(伊丹沢)、佐藤豊洋さん(飯樋町)、天野浩樹さん(大久保・外内)が出品し健闘しました。



地区の大会で上位に入賞し共進会に臨んだ皆さんを杉岡村長らが激励しました。ますますのご活躍を。

## 飯館村の食の魅力が広がります

最新情報をチェック!  
「飯館村の食と暮らし」



Instagram



WEBサイト

『地域魅力向上・発信事業』の一環で、仙台市で行われた2つのイベントは、大盛況! 飯館村の「食」と「農」の魅力を発信する企画は、9月に再び仙台市で、その後全国各地の大学祭でも展開します。今回は行けなかったという皆さんもぜひ、お出かけください。

### Route 227s' cafe いいたてフェア ■ 7月1日~31日



カフェ・レストラン「Route 227s' cafe」にて開催された『いいたてフェア』。「飯館産黒毛和牛入りメンチカツの満喫プレート」「飯館産いんげんと生ハムのレモンクリームソースパスタ」「夏いちご”すずあかね”と飯館ショコラ」が提供されました。この特別メニューを楽しんだたくさんの方に、飯館の食の魅力を知っていただくことができました。

### ■ 7月12日~15日 杜の都のワイン祭り バル仙台2024

仙台市中心部の勾当台公園市民広場で開催された『バル仙台』。飯館村ブースで提供された「飯館産黒毛和牛のスペツァティーノ」には「肉のゆーとびあ」の牛肉と牛骨を使用し、細杉今朝代さんのインゲン、「株式会社ダイサン」のミニトマト、「村カフェ753」のバケットも添えて。村の食材を生かしたスイーツや、「気まぐれ茶屋ちえこ」のドブロクなども大好評でした。



一人ひとりのニーズに寄り添うケアを届けたい  
あがべご訪問看護ステーション



星野勝弥さん(飯樋町)が代表を務める訪問看護ステーション。5人の看護師が所属し、利用者約20人の定期訪問を担っています。「それぞれに経験を積んだ人が、志を持って、スタッフになつていきます。多様な力をチームの強みとして、利用者さん一人ひとりのニーズに合わせてケアを心がけたい」。

看護師と保健師の資格を持つ星野さんは、「飯樋村で、帰還する高齢者の暮らしを支えたい」と、平成29年、避難指示が解除されたばかりの村へ移住。飯樋村地域包括支援センター勤務を経て、令和2年に訪問看護事業を立ち上げました。訪問看護とは、看護師が、医師やケアマネージャーと連携し、在宅で療養生活を送る方を訪

企業雇用型協力隊として勤務を始めた井口さん(右)。経験豊富な即戦力です。



問して看護を行うサービス。日常生活の看護、疾病の悪化防止や予防の支援、ターミナルケア(終末期医療)、心のケア、服薬の管理など内容は多岐にわたります。介護保険の対象は、要介護・要支援の認定を受けていて主治医が必要と認めた方。一方、介護保険を使わず自費で利用する場合は個々に合わせたフリープランで利用することも可能です。星野さんは「家族の負担を医療の面から少しでも軽くできれば、まずはケアマネージャーや医師に相談してほしい」と話しています。ここでは、いいたてクリニックの医師で訪問診療を



蔵を改修したオフィス。訪問前の準備や看護記録の作成などデスクワークはここで。

行っている本田徹先生との連携も、ケアの効果を上げています。この5月からは、企業雇用型協力隊として、井口栄子さん(大久保・外内)がスタッフに加わりました。井口さんは南相馬市の出身。関東圏で看護師として働き、家族の介護と看取りも経験しました。昨年、本田医師の活動に触れ、共鳴して飯樋村への移住を決意。「地域をつなぐ協力隊になろう」と訪問看護の仕事を選びました。星野さんは、ギリシヤ語「アガペー(無償の愛)」の意味を重ねて「あがべご」と命名しました。看板のイラストは、星野さんの奥様が描いています。

あがべご訪問看護ステーション  
飯樋村飯樋字町387  
☎ 0244-32-1463

定休日/土日曜日・祝日  
時間/午前9時~午後5時  
訪問エリア/飯樋村・川俣町全域と南相馬市・福島市・相馬市・浪江町の一部

3人の看護師が常勤しています。(右から)笑顔で患者さんに寄り添いご家族からの信頼も厚い木村明美さん、協力隊の井口さん、代表の星野さん。



グレーチングの盗難対策  
グレーチングに村章をペイント

グレーチングは、鋼材を格子状に溶接した製品で、側溝のフタなどに広く使用されています。道路や公園など、公共の場所にも多用されていますが、近年盗難の被害が相次いでいます。6月に、近隣市町村と飯樋村でも盗難の被害があり、盗難対策として、村道のグレーチングに村章のペイントを施しました。

グレーチングがなくなっている箇所を見つけたら、建設課土木係までお知らせください。また、不審な車両や人物を見かけた場合は、警察への通報をお願いします。

問 建設課土木係 ☎0244-42-1623



7月の村の動きと主なできごと

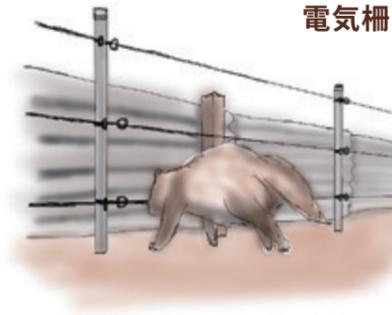
- 1日・新規就農者技術習得管理施設「農業研修館きらり」竣工式(農業研修館きらり)
- ・「社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式(村役場)
- ・飯樋村教育委員任命式(村役場)
- 1日・魅力向上発信事業 ルート227カフェいいたてフェア(宮城県仙台市)
- 3日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いいたてホーム)
- ・第2回学校運営協議会(いいたて希望の里学園)
- 5日・福島県立医科大学保健科学部 レクリエーション実習(いちばん館)
- 6日・昆虫の聖地協議会総会(大熊町)
- 7日・ふかや風の子ども広場イベント「謎解き探検」(ふかや風の子ども広場)
- ・飯樋/上飯樋/関根/松塚行政区 住民懇談会(各集会所)
- ・比呂地区 農地中間管理事業説明会(比呂集会所)
- 8日・農業委員会臨時総会
- 飯樋村農業委員辞令交付式及び飯樋村農地利用最適化推進委員委嘱状交付式(村役場)
- 11日・人権擁護委員退任感謝状及び新任人権擁護委員委嘱状伝達式(村役場)
- 12日・JAGグループ肉用牛共進会(本宮家畜場)
- ・乳幼児健診(いちばん館)
- 12日・魅力向上発信事業 バル仙台(宮城県仙台市)
- 13日・語学研修WAKUWAKU Eツア-事前研修(交流センター「ふれ愛館」)
- 15日・第13回村民グラウンド・ゴルフ大会(いいたてスポーツ公園屋内運動場)
- 第21回飯樋村老人クラブ連合会グラウンド・ゴルフ大会(いいたてスポーツ公園屋内運動場)
- 13日・14日・移住検討者向けモニターツアー「つながるミチシル旅」(村内各所)
- 16日・草野行政区 住民懇談会(草野集会所)
- 16日・25日・夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動(村内各所)
- 17日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いいたてホーム)
- 18日・わくわく推進協議会(村役場)
- 20日・佐須/二枚橋/須賀行政区 住民懇談会(各集会所)
- ・ふくしまフェスタin恵比寿ガーデンプレイス(東京都渋谷区)
- ・自主文化事業サイエンスショー(交流センター「ふれ愛館」)
- 21日・飯樋町/八木沢/芦原/伊丹沢/大倉行政区 住民懇談会(各集会所)
- 22日・農業委員会定例総会(村役場)
- 25日・伊藤信太郎環境大臣 来村(長泥地区)
- ・定例教育委員会(村役場)
- 26日・飯樋村議会第5回臨時会(議場)
- 26日・CRSスポーツ工業株式会社・飯樋村協力協定締結式(村役場)
- 27日・語学研修WAKUWAKU Eツア-事前研修・結団式(交流センター「ふれ愛館」)
- ・はやま湖まつり2024(はやま湖畔)
- 27日・28日・移住検討者向けモニターツアー「子育てわくわくミチシル旅」(村内各所)
- 28日・比呂/小宮行政区 住民懇談会(各集会所)
- 飯樋村長杯パークゴルフ大会(いいたてパークゴルフ場)
- 29日・第2回いいたて村文化祭実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)

## 農地を守る防除柵 ～いろいろあるけど、どれが良い？

野生動物から農地を守るための防除柵には、いろいろな種類のものがあります。今回は、よく見かける3種類の防除柵について、それぞれの特徴や設置と管理のポイントを紹介します。

### 管理は大変だが効果は高い！

#### 電気柵



三段くらいに張られたものをよく見かけますが、これは動物が鼻などで触れた時に、電気で驚かせて侵入を防ぐ、心理的効果を狙った柵です。きちんと性能を発揮していれば効果が高いですし、材料が軽くて設置しやすいのも良いところですが、草などが触れると漏電して効果が低くなるので、こまめな草刈りや点検が必要です。また、24時間通電させて、効果を維持し続けないと、動物に突破されてしまうこともあります。

### 設置は大変でも頑丈！

#### ワイヤーメッシュ柵



金属のワイヤーがメッシュ状に溶接されたもので、イノシシなど、登るのが得意ではない動物の侵入を、物理的に防ぐ柵です。地際をきちんと固定できていれば頑丈に設置できますし、電気柵ほど管理に手間はかかりません。しかし、柵自体が重くて、設置は大変です。本来は丈夫なのですが、草刈りをしないと周りがやぶになってしまい、イノシシなどの動物が人目に付かず安心してやぶに潜んで、最終的には柵を壊してしまうことがあります。この柵も、定期的に草刈りや点検をしましょう。

### 柵を登る動物にはこれ！複合柵



三段くらいの電気柵ではサルが飛び越えてしまいますし、ワイヤーメッシュ柵ではサルやアライグマ、ハクビシンなどは登って侵入してしまいます。これらを解決するため、ワイヤーメッシュ柵の上に電気柵を設置したものを、複合柵といいます。とても効果的な柵ですが、電気柵とワイヤーメッシュ柵両方の管理が必要になります。また、サル対策で設置する場合は、上から飛び込まれないよう、木や電柱から3mくらい離して設置しましょう。

どんな動物から農地を守りたいのか、目的に合った防除柵を選びましょう。それから、どんな防除柵でも管理が大切です!!

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

現飯館村のエリアでは明治期までタイムマツアカシ台が明かり取りに用いられていたそうです。細い鉄の棒を組んだ上で松を燃やし、粘土の箱の物に灰が落ちる仕組み。家族が集まる炉の近くに置かれ、松の補給(松アゲ)は子どもの役目でした。また、松ヤニを竹の皮に包んだヤニロウは、立てて燃やす際についてカスを落とすことからセツカンロウと呼ばれました。ロウソクもありましたが、用に足りない質の悪い物が多かったそうです。

そして屋内の明かりは石油ランプに変わっていきます。導入の時期は家によってもまちまちですが、明治30年代には普及したとされています。ランプのホヤ磨きが子どもの仕事に加わりました。電気については、故菅野庄太さん(佐須)がメタンガス発生装置による点灯の実験を行っていたという記録が残っています。また、昭和4年にな



大火山で、太陽光発電と風力発電を組み合わせたクロス発電を行う「いいいたてまでいな再エネ発電所」。



真野川にかかる「堰堤(えんてい)橋」。かつて発電所と堰堤があった場所にちなんで名付けられました。

おすすめ図書

ふれ愛館だより 交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

今年映画化されたミステリー小説。一見何とも思わないような間取り図は、よく見るとどこか違和感がある。読めば、あれ？なんかおかしい？と気づくはず。この間取り図の謎とは…ぜひ手に取って読んでみてください。

変な家 雨穴 作 飛鳥新社

最後に「ありがとう」と言えたなら 大森あきこ 作 新潮文庫

納棺師としてさまざまな方々のお別れのお手伝いをしてきた作者。納棺式には一人ひとり違う物語があるようです。死とは何か、わたしたちはどう生きればよいのか、考えるきっかけをくれる1冊です。

第25回読書メッセージコンテスト

8月10日から読書メッセージコンテストの作品を募集します。1日1ページでも、5分でも、読書の時間を作ってみてください。読書は心を豊かにしてくれますよ。

夏真っ盛りのふるさとで  
ワクワクのイベントが続きます

第24回

杉岡誠村長の  
**愛楽故郷味**  
あいらくふるさとみ



7月は、ゲストハウスCOCODA主催の「ワクワク交流イベント」や「まだいなマルシェ」のほか、直前までの雨を吹き飛ばした「はやま湖まつり花火大会」「飯館村長杯パークゴルフ大会」など、熱意あふれるイベントが盛り沢山でした。8月にかけても、夏のイベントが目白押しとなっております。例年以上の暑さが予想される今夏、体調には「一層」留意され、お過ごしください。

夏真っ盛りの文月。1か月にわたり、仙台市のルート227カフェにて「いたてフェア」が開催されました。いたてフェア2回目の今回は、生産者さんにご試食・感想もいただき、さらに滋味深いメニューになりました。愛情にあふれる質の高い産品をご提供いただきました皆様、メニューを楽しんでいただいた皆様、心から感謝申し上げます。次回開催が今から楽しみです。

6月30日には、「飯館みらい発電所」の竣工式が行われました。そして、「飯館から始まる森林再生と未来志向型農業体系緊急整備事業」により整備された、この木質バイオマス発電施設からの「排熱」を利用した「未来志向型農業」へのチャレンジも動き始めました。詳しくは7月号の「発電×農業」「栽培産地立地協定」をご覧ください。詳しくは7月号の「発電×農業」「栽培産地立地協定」をご覧ください。詳しくは7月号の「発電×農業」先には、皆様のハウスやご自宅で「運ばれてきたクリーンな熱を活用する」、そんな未来を手繰り寄せることが出来れば、と夢見ています。

翌日の7月1日には、「農業研修館さくら」がオープンしました。常に村民の営みの中心にあるのが「農」であり、そのなりわいの姿が「農業」です。飯館村は東日本大震災以降、全村避難中にあつても、「農の営みを途絶えさせてはならない」との思いから、村内は勿論、村外での営農支援、遠隔地での営農支援にも力を尽くして来しました。

「さくら」は、新規就農者の呼び込みの拠点であるのと同時に、農業研修の場、農業を通じての交流場所としての活用はもとより、「農」に親しんで来た皆様、「農」に興味を持つ方など、全ての方々にご利用いただける施設です。また、昨年リニューアルした「きこり」や多くのキャンパーにご利用いただいている「あいの沢キャンプ場」に隣接し、有機的な活用が期待できる貴重な宿泊研修施設です。すでに農業研修をする大学生や花農家さんの会合などにもご利用いただいております。どうぞ積極的にご利用いただきたく存じます。

■ひとのうごき

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤 安雄 さん	64	二枚橋・須萱
新妻 春子さん	94	蕨平
菅野 明子 さん	76	比曾
渡邊 しづえ さん	89	飯樋町
鈴木 秀治 さん	86	小宮
阿部 弘子 さん	66	佐須

ご冥福をお祈り申し上げます



(6月21日から7月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。



ひとのうごき 令和6年7月1日現在

人口	今月(前月比)	6月1日~30日までの人口動態
●男	2,318人(-7)	転入 1人
●女	2,266人(-7)	転出 9人
計	4,584人(-14)	出生 0人
		死亡 6人
世帯数	1,800戸(-2)	(住民基本台帳人口)

大槻美友さんのキャンドルが  
「太平洋・島サミット」の贈り物に

『工房マートル』(上飯樋)のろうそく作家・大槻美友さんのポタニカルキャンドルが、7月に東京都で開催された『2024年太平洋・島サミット』で、各国代表の配偶者へ贈られました。

制作の依頼は、外務省から。「震災からの復興の地・福島県で丹念に育てられた植物を使った手づくりのキャンドルを贈り、平和や安全へのあたたかな祈りを込めたい」と選定の理由が伝えられたそうです。

「この村で工房を構えているからこそその役目だと感じて、一つひとつに向き合っていました」と大槻さん。「手に取る方が、村や福島のことを気にかけてくれる瞬間があったらいいなと思いつつながら」。

大槻さんは、世界中から届いた震災時のサポートへの感謝と、キャンドルに込めた想いを綴り、英訳を付けたカードも添えました。



カードのメッセージは「福島県内の農家さんが大切に育てた、色鮮やかな花々のキャンドルをぜひお楽しみください」と結ばれています。



3種類のキャンドルを制作しました。(村産シャクヤク、カスミノウ、ヘリクリサム、千日紅など/村産の麦/南相馬市産ラナンキュラス)

村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 ④

!! 8月の思い出 !!



先日、同級生に会う機会がありました。中学生時代の仲間です。ひどく懐かしく、そしてどことなく新鮮で、話していると、まるで中学生時代に戻ったような気になりました。

その言葉の中で、「お互い健康が一番!」「元気でいよう!」笑顔で話してくれたのが、とても印象的でした。歳をとってしまったせいでしょうか?でも

世代にかかわらず誰でも感じる友人達との楽しい会話だと思います。

8月はお盆の時期。帰省の時です。ご先祖様も、都会に住んでいる息子達や娘達、そして飯館での思い出を持って離れて行った叔父さん、叔母さん達も、この8月にはふるりの景色や水や土の匂いを求め、友人達に会うために帰って来るのだらうと思います。

帰省することが、とても大事な時間を取り戻すひとときになってほしいと思っています。そして友人達と酒を酌み交わし、初恋の話や苦労したことの思い出話をし、一時昔に心を馳せて、心も若返った後、ふるりの8月の思い出を土産に、また新しい明日に向かって行ければいいと思っています。



までいなマルシェ 道の駅までい館（生産者の会）の皆さんが開いた手づくりのマルシェ

7月13日、いいたて村の道の駅までい館のイベント広場で『までいなマルシェ』が開催されました。道の駅の生産者の会が主催し有志が出店。野菜や花、お弁当やパン、雑貨などを販売しました。日頃は直接会うことが少ない生産者とお客様が、顔を合わせて交流できる貴重な機会。売り手も買い手も会話を楽しみながら、マルシェの醍醐味を味わっていました。次回は9月28日に開催の予定です。お楽しみに！



## いいたて夏まつり

8/11 日

午前10時～午後2時  
いいたて村の道の駅までい館

音楽やダンス、子どもジャンケン大会、大抽選会などのステージイベントの他、村内企業のブースでは、軽食やスイーツの販売、ワークショップなどが行われます。また、埼玉県春日部市の市長が来場し、特産品を特別販売。無料のドローン体験や、飯館村森林組合のボードゲーム体験、風船のプレゼントなどもありますよ。入場は無料。どうぞ皆さんでご来場ください！

問 飯館村商工会 ☎0244-26-7957

〈編集後記〉

今回の広報いいたてには、特集に私が掲載されています。震災当時小学6年生だった私は、紆余曲折ありながらですが、今、飯館村で働いています。今回の取材で、あの時同じ苦労や悩みを経験した同級生たちが、一所懸命に働く姿を見て、自分もへこたれることなく前に進み続けようと強く思いました。同級生の皆さん、近々同窓会なんていかががでしよう？一緒に頑張っていきましょう！（巻野）

特集取材で若い担い手の皆さんのお話を聞いた後に避難中の学校の写真をみていたら、熱いものがこみ上げてきました。避難はしたけど、逃げたんじゃない。最悪に思える状況でも、その最善を求めて立ち向かってきたんだ。大人も、子どもも。そう思えて涙が止まりませんでした。（星）